

勇気を持って前進しよう

尾崎元海

花七日なのかという桜の盛りが例年より期間が長かったが、あつという間に葉桜の時期となった。自然界は新芽が力強く成長し、様々な花も競うように、己おのがいのちを伸びやかに展開している。生命が大らかに、自己の個性を十分に現していることほど、美しいものはない。人間はそういうことを頭では感じているのだが、自己の内奥ないおうちに自然の生物の生命を超えた無限の美と愛と力が秘められていることを、深く知ろうとしない。その理由は、大半の人々が肉体人間観カルマという業の波を超えられないことにある。

今年のNHKの大河ドラマで「龍馬伝」を放映しているが、政治家のみならず、一般の多くの人が坂本龍馬ひまに惹かれるようだ。これは誰の心の中にも既成概念に把われず、社会人類のために大きく生命を発現したいという気持ちがあることを示している。もしとということはないが、今の時代に龍馬が生まれ変わっていたら、現今の政治家や実業家や思想家を遥はるかに超えた地球的スケール、否、それをも超えた宇宙的スケールで生きることを思う。

ここ最近、エコ社会ということで、家電製品を含めエネルギー問題などで自然界と調和していくという考えが進行している。これは地球の未来を考えれば当たり前のことで、遅きに失しているが、それでも大きな前進であることは言うまでもない。生物とそれを取り巻く環境の関係を研究するということは、良心に照らすまでもなく、人間生存の根本である。形の世界が曲がりなりにも自然界と和合していこうとする今日、心の世界が大自然の大調和の運行と調和して生きていくことが急がれる。

大自然を生み成した大生命・神のみ心が、〃全宇宙よ大調和であれ。全人類よ平和であれ〃ということであるのは、少し考えれば如何なる人も理解するところである。まずは、「世界人類が平和でありますように」という大調

